

令和7年度 日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

代表 愛知医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科・昭和医大横浜市北部病院甲状腺センター

古川まどか

令和7年度第1回

2025年11月20日（木曜日）WEB

1. 特集テーマ①「頸部リンパ節の超音波像と病理像」

「頭頸部扁平上皮癌リンパ節転移の節外浸潤症例の超音波像と病理像」

福原 隆宏（自治医科大学 耳鼻咽喉科学講座）

頭頸部扁平上皮癌のリンパ節転移における節外浸潤の超音波像と病理像を検討したところ、筋肉への浸潤像、リンパ節被膜の消失といった所見が超音波像で確認できることが分かった。

2. 特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断のピットフォール」

「頸部リンパ節超音波診断で注意すべき事項①」

古川まどか（愛知医大耳鼻咽喉科頭頸部外科・昭和医大横浜市北部病院甲状腺センター）

リンパ節疾患を超音波像で詳細に観察し、超音波像から病理像を推測し、最終的に摘出リンパ節の病理像と照合することが重要である。その際も、正常リンパ節の解剖、生理を理解することが基本であることを示した。

令和7年度第2回

2025年12月18日（木曜日）WEB

1. 特集テーマ① 「頸部リンパ節の超音波像と病理像」

「結核性リンパ節炎の超音波像と病理像」

松田枝里子（鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科）

感染初期の腫脹リンパ節では、リンパ節の境界は明瞭、内部は不均質 リンパ節の間にある間質が低輝度であることが特徴であるが、感染の段階が進行することで、壊死や石灰化といった血流に乏しい構造を呈するようになり、超音波像においてもこれらの変化が所見としてとらえられることがわかった。

2. 特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断のピットフォール」

「頸部リンパ節超音波診断で注意すべき事項②」

古川まどか（愛知医大耳鼻咽喉科頭頸部外科・昭和医大横浜市北部病院甲状腺センター）

リンパ節に癌が転移する際は、辺縁洞からリンパ節内で癌細胞が増殖するが、しばらくは被膜を越えないことがわかり、リンパ節転移の超音波診断では、リンパ節内部の一部にある転移病巣を正しく検出し、リンパ節被膜が保たれている段階で正確に診断することが重要であることがわかった。

令和7年度第3回

2026年1月29日（木曜日）WEB

1. 特集テーマ①「頸部リンパ節の超音波像と病理像」

胞巣型横紋筋肉腫転移リンパ節の超音波像

服部 結子（鳥取大学 医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野）

胞巣型横紋筋肉腫の頸部リンパ節転移症例の手術例において、頸部に多発したリンパ節転移の病理所見を検討した。複数のリンパ節には、様々な段階の転移病変が存在していたが、肉腫の原発巣と同様に、リンパ節内転移病巣では壊死所見に乏しい傾向が認められ、この病理組織学的特徴は超音波所見とほぼ一致していた。

2. 特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断のピットフォール」

「頸部リンパ節超音波診断で注意すべき事項③」

古川まどか（愛知医大耳鼻咽喉科頭頸部外科・昭和医大横浜市北部病院甲状腺センター）

頭頸部扁平上皮癌頸部リンパ節転移の超音波診断基準の考え方について概説した。形態学的特徴としては、リンパ節の厚みがまず増えること。節外浸潤をきたすまでは、境界明瞭平滑であること。内部構造の変化では、癌細胞が充満すると内部エコーは均質化するが、角化壊死や液体貯留（嚢胞性変化）をきたすと不均質になる。リンパ節門構造の圧排所見がみられること、すなわち、（リンパ節門部の高エコー構造物が、腫瘍により圧排される。血流走行の変化では、リンパ節内部の腫瘍細胞塊を避けてリンパ節門部からの血流が走行すること、さらに、被膜浸潤をきたすとリンパ節の辺縁に腫瘍性血管新生を示唆する血流が出現することが診断基準のもととなっている。サイズでは、厚みが1cmを超えると被膜浸潤を起こしやすく、CT,MRIで診断するのでは遅すぎるため、この診断基準をもとに、超音波で早期に診断する必要がある。

3. イメージリーディング

小松崎 聡（医療法人社団 聖仁会 我孫子聖仁会病院 検査科）

実際の臨床現場で診断に迷った症例として、上頸部リンパ節腫脹症例を提示し、そのエコー像をWEB参加者全員で考察していった。

令和7年度第4回

2026年3月12日（木曜日）WEB

1. 2025年度特集テーマ①「頸部リンパ節の超音波像と病理像」

ホジキンリンパ腫の超音波像と病理像

堂西 亮平（鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科）

通常の悪性リンパ腫は、腫瘍細胞が一様に増えるため、リンパ節の内部エコーが均質になるが、ホジキンリンパ腫は、正常リンパ節組織の隙間に混在するように腫瘍細胞が存在するため、不均質な内部エコーを呈することが分かった。

線維化は来さない

2. 2025年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断のピットフォール」

「頸部リンパ節超音波診断で注意すべき事項④」

古川まどか（愛知医大耳鼻咽喉科頭頸部外科・昭和医大横浜市北部病院甲状腺センター）

頸部リンパ節に転移をきたす様々な病理型の癌について、転移リンパ節超音波像の特徴、鑑別点について症例を提示しながら概説した。腺癌系や神経内分泌癌、悪性黒色腫では扁平上皮癌のリンパ節転移とは異なり、それぞれ特徴的な超音波像、病理組織像を呈することが示され、また、扁平上皮癌の中でもウイルスが発がんに関与するような p16 陽性扁平上皮癌、上咽頭がんでは、そのほかの扁平上皮癌とはやや異なる超音波像、病理組織像を呈する可能性が示唆された。

3. イメージリーディング

小松崎 聡（医療法人社団 聖仁会 我孫子聖仁会病院 検査科）

実際の臨床現場で診断に迷った症例として、頸部リンパ節腫脹症例を提示し、そのエコー像を参加者で考察していった。